

商いの原点

「商いの原点とはいったい何でしょう？」

ベトナム、ハノイの風景を見て「商いの原点」を思い出す。

ベトナムは急速に発展して大型のスーパーマーケットが次々に出店していますが、旧市街では、依然として昔ながらの商いを見ることができます。

女性が天秤棒を担いで、野菜やくだもの、花、魚を売り歩く。露店では戸板一枚のスペースに花、野菜、くだもの、魚、豚肉、鶏肉を並べて対面で販売している。冷蔵設備や冷凍設備などはない。全てその日に売れるだけ、痛まぬ量だけを夏でも常温で物売り切る。1人でできないことはやらない。身の丈以上のことはやらない。

街にはホームレスはいない。ただ黙々と自分の仕事をする。そこには貧しさ、みじめさ、暗さはない。夕方、空の天秤棒を担いで家路を急ぐ姿が印象的であった。

露店では、日本の戦後の闇市のように物を煮たり、焼いたり、揚げたりして食物を提供して、そこに老若男女が群がり無心に食べている。



日本でも、かつて茨城や千葉から東京に向かう常磐線などでは、朝、自分の背丈以上の荷物（野菜）を背負った行商の女性が数多く見かけた。大切な荷物を座席の上に置き、自分は床に座るといふ光景がつい最近まで見ることができた。そこでも貧しさ、みじめさ、暗さはなかった。逆に家族を養うための力強さを感じ勇気をもたらした印象がある。「商い」の素晴らしさを感じた。

現在でもたまに見かける。それは東京の常連客に荷物を届けるためである。宅急便は使わない、あくまでも人力で物を運ぶ。かつては東京にも食べ物屋台も数多くあった。

今回の、「東日本大地震」により、「店がなくなる」「物がなくなる」「物はあるがガソリンがなくて運べない」「停電で作業ができない」「水道が使えない」「ガスが使えない」など多くのことが発生しました。大きな被害を被って建物が無くなった地域の皆さまには本当に同情致します。早い復旧を心よりお祈り致します。

しかし、まだ被害の少ない地域では、「ないないづくめで商売ができない」と思っただけで何もしない人は、果たして「本当の商人」でしょうか。「商いの原点は、人」です。「昔の商い」を知っている人は思い出してください。知らない人は勉強してください。そこから、英知を絞りだして、今自分に何ができるかを考えて、それから行動することをお願いします。

「昔の商い」には共通点があります。

1. だれの手も借りず、「1人」でできる範囲で商いを行う。
2. 扱っている商品は、「一品」または少品目。
3. 1人で運べる「量」しか扱わない。
4. 「1日に売れる量」しか在庫を持たない。
5. 歩いて運べる「距離」しか運ばない。
6. 「機械」は極力使わず、「人力」である。
7. 「対面販売」である。
8. 販売スペースは「戸板一枚」。
9. 「固定客」を持っている。
10. 「資金」は現金で、買い掛けはしない。

それが「近代の商い」になってどう変わったか。

1. だれの手も借りず、「1人」でできる範囲で商いを行う。
→「分業化」が進み複数で分担して商いを行うようになった。
2. 扱っている商品は、「一品」または数品。
→「複数」の商品を扱うようになった。

3. 1人で運べる「少量」しか扱わない。
→交通網、輸送方法が確立し「大量」に物の移動ができるようになった。
4. 「1日で売れる量」しか在庫を持たない。
→保存技術が発達して「在庫」を持つようになった。
5. 歩いて運べる「距離」しか運ばない。
→「コールドチェーン」などの発達により、「長距離」の移動が可能になった。
6. 「機械」は極力使わず、「人力」である。
→「機械」を使うことで、大量生産が可能になった。
7. 「対面販売」である。
→「セルフサービス」が発達し、対面販売が減った。
8. 販売スペースは「戸板一枚」。
→保存技術、セルフサービスが発達して、「広いスペース」で販売できるようになった。
9. 「固定客」を持っている。
→分業、セルフサービスにより、「固定客」が「流動客」のような扱いとなった。
10. 資金は「現金」で買い掛けはしない。
→現金から「買い掛」ができるようになった。

最近の商売はいろいろと便利になりました。

しかし、便利なだけに何か一つ欠けると大混乱を招き、機能しなくなることもあります。「商いの原点」は時代がどう変わっても、変わることはないと思います。「商いの原点は、人、個人の技能」であると考えます。

「デジタル」の時代ですが「アナログ」も必要になります。「電動ミートスライサーは使えても、手切りができない」、「POSレジは使えても、暗算ができない」では、もしもに時の対応ができません。

自分を守る意味でも、家族を守る意味においても、1人1人が自分なりに、今回の地震を機会に、「自分の技能」「自分の役割」考え直すよい機会だと思いません。

また、店舗は部門ごとに、電気、水道、ガス、ガソリンがなくなった時の対応を事前に話し合っておくことも必要です。

「働かなければ、給料を得ることはできません。」

今こそ「商いの原点」を考え、英知を絞り出し日本の復興のために各自が努力しましょう。